

中国の殺虫剤市場

株式会社クララオンライン
コンサルティングチーム

<要約と結論>

中国では日本脳炎やマラリアなどの蚊やハエが媒介する伝染病に、年間数千人が感染している。特に南部沿岸地域を中心に注意が必要で、長期滞在者には一部の感染症について予防接種が推奨されている。

中国で昔から愛用されている「花露水」は、虫除けや痒み止めとして広く利用されており、一家に一本必ずあると言ってもよいだろう。近年はディート等の虫除け成分を配合したものや様々な香りの商品が出ており、スーパーや商店で手に入る。虫除け効果の持続時間も長く、値段も手ごろだ。

虫除けスプレーは日本で一般的な缶入りのエアゾールタイプのもは見かけない。たいていはプラスチックボトルに入ったミストタイプのスプレーで、花露水に比べれば価格は2倍以上する。ディートを使ったものもあるが、化学物質を過度に恐れる風潮があるためか、漢方植物の成分や植物精油を使い安全性をアピールする商品は多い。手軽さゆえに人気がある虫除けリングやキーホルダーは、中の薬剤を交換できるものが多く、デザインもファッショナブルだ。

また家庭用の虫除け製品では、蚊取り線香はもちろん、日本でもおなじみのマットやリキッド式の加熱式電気蚊取り器が普及している。中国でも今やリキッド式が主流となっているが、蚊取りマットはUSBの小型加熱式蚊取り器でよく用いられており、日本では見かけないLEDランプを使った蚊取り家電も登場している。

害虫用の殺虫剤では大手3社の製品を中心に数多くの種類があるが、エアゾール缶タイプのほかミスト状のスプレー式殺虫剤も多い。見えないダニよりもハエやゴキブリに悩まされることが多いためか、くん煙殺虫剤もゴキブリ駆除に対応するものばかりだ。また粘着シートを使った捕獲器や薬剤の入った餌も1個数元から売られているが、家庭で使った場合の安全性に十分な配慮がなされていない商品も目につく。日本のアースも害虫駆除商品を販売しており、中国メーカーの中にも海外から輸入した薬剤の使用をアピールする製品は多い。ECサイトでは購入者が駆除効果を写真付きでコメントしているケースが大半で、価格が高くて評価が良い商品が売れ筋となっている。

1. 中国では虫さされに要注意

「なんてハエが多いんだ」、中国を訪れたことがある人ならば誰もが一度は思ったことがあるだろう。蚊も種類は同じだと思うが日本のそれに比べて刺されると痒みが強く、相当腫れる場合もある。農村はもとより、都市部でも「城中村」と呼ばれる農地を追われた元農民や低所得者が住む地区の衛生観念は十分でなく、放置されたゴミや溜め水が害虫・害獣の発生源になっている可能性は高い。



小さい店ほど美味しいが… (同 16 人)、リーシュマニア症が 305 人(同 1 人)、ペストが 1 人(同 0 人)、E 型肝炎が 27,922 人(同 15 人)、腎症候性出血熱が 8,853 人(同 48 人)、レプトスピラ症が 354 人(同 1 人)となっている。

蚊が媒介する日本脳炎、デング熱、マラリアの感染者数は年間数千人に上っているが、中国のどのあたりで感染しているのだろうか。少々古いデータだが、国家衛生計生委員会の「2013 年中国衛生統計年鑑」によると、2012 年のそれぞれの感染症の発病率と死亡率は次の表のとおりだ。乾燥した内陸部よりは湿潤な沿岸部、寒冷な北方よりは熱帯・亜熱帯性気候の南方地域の方が虫が多そうなイメージがあるが、確かに南部沿岸地域を中心に発病率が高い傾向が見て取れる。さらに貧困率の高い河南省や広西チワン族自治区、四川省なども発病率が高い。なお同じく蚊が媒介するジカ熱は、海外旅行に出かけた人が帰国後に発症する輸入感染症として、2017 年 1~2 月の 2 カ月間だけで 8 例報告されている。

蚊やハエ、ネズミ等は伝染病を媒介する。国家衛生計生委員会のまとめによれば、中国が定める法定伝染病の感染者数は、2017 年 4 月だけで蚊が媒介する日本脳炎が 4 人、デング熱が 27 人、マラリアが 226 人、ハエが媒介するリーシュマニア症(黒熱病)が 11 人、ネズミが媒介する E 型肝炎が 2,714 人、腎症候性出血熱(HFRS)が 742 人、レプトスピラ症が 4 人となっている。2016 年の通年では、日本脳炎が 1,237 人(死亡 47 人)、デング熱が 2,050 人(同 0 人)、マラリアが 3,189 人(同 16 人)、リーシュマニア症が 305 人(同 1 人)、ペストが 1 人



法定伝染病の感染者数は毎月公表されている

蚊が媒介する伝染病の発病率・死亡率（2012年）

	日本脳炎		デング熱		マラリア	
	発病率 (1/10万)	死亡率 (1/10万)	発病率 (1/10万)	死亡率 (1/10万)	発病率 (1/10万)	死亡率 (1/10万)
総計	0.13	0.00	0.04	-	0.18	0.00
北京	-	-	0.06	-	0.15	0.01
天津	-	-	-	-	0.07	-
河北	0.01	-	0.00	-	0.05	-
山西	0.05	0.00	-	-	0.01	-
内蒙古	-	-	-	-	0.02	0.00
遼寧	-	-	-	-	0.10	-
吉林	-	-	-	-	0.05	0.00
黒竜江	-	-	0.00	-	0.02	-
上海	0.03	-	-	-	0.07	-
江蘇	0.04	-	0.01	-	0.25	0.00
浙江	0.07	0.00	0.02	-	0.25	-
安徽	0.14	0.00	-	-	0.17	-
福建	0.02	-	0.05	-	0.15	0.00
江西	0.06	0.00	0.01	-	0.12	-
山東	0.05	0.00	-	-	0.10	-
河南	0.16	0.00	0.00	-	0.17	0.00
湖北	0.02	-	0.01	-	0.22	0.00
湖南	0.23	0.00	0.01	-	0.25	0.00
広東	0.06	0.00	0.45	-	0.08	0.00
広西	0.15	0.01	0.00	-	0.47	0.01
海南	0.13	0.01	0.02	-	0.15	-
重慶	0.60	-	0.01	-	0.08	-
四川	0.41	0.01	0.00	-	0.20	-
貴州	0.45	0.02	-	-	0.04	-
雲南	0.68	0.03	0.05	-	1.37	0.00
西蔵	-	-	-	-	0.26	-
陝西	0.17	0.01	0.00	-	0.08	-
甘肅	0.02	0.01	0.00	-	0.03	-
青海	-	-	-	-	0.04	-
寧夏	-	-	-	-	0.03	-
新疆	-	-	-	-	0.03	-

「2013年中国衛生統計年鑑」9-1-4よりクララオンラインが抜粋・編集

2. 中国の虫除け・蚊取り商品とは

中国人なら誰もが知る「花露水」は、虫除けとしても痒み止めとしても使うことができる万能アイテムだ。アルコールに様々な漢方成分をプラスしたもので、医薬品ではない。複数のメーカーからいろいろな花露水が出ており、夏が近くなるとスーパーや商店などに山積みになって売られているのを目にする。

特に虫除け効果をうたった花露水には、虫除け成分のディートやピレスロイド系薬剤が含まれているものが多い。医薬品ではないため、皮膚や傷口に直接塗るとアレルギーや皮膚炎をおこす可能性があるというが、一般的には腕や足に直接スプレーしたり、昔からある瓶タイプならば手のひらにとってバシャバシャと体中に塗ったりする。痒み止めとして使うなら、虫刺され部分に直接塗ればよい。価格は1瓶10元ぐらいからある。ちなみに花露水はアルコール濃度が高いことから、手の消毒やスマートフォンの指紋汚れ落とし、ホワイトボードの掃除、複写式領収書や宅配便の送り状の宛名消しなどに使われたりもしている。



最も有名なのが「六神」ブランドの花露水だろう(左2本)。六神の虫除け花露水の効果は7時間も続く。

さて、日本では虫除けスプレーといえば、昔からあるスプレー缶入りのエアゾールタイプのものでプラスチックのスプレーボトルに入ったミスト(霧)タイプのものであるが、中国ではほとんどがミストタイプだ。花露水があまりに浸透しているせいか、日本に比べ出回っている虫除けスプレーの種類は多くない。

そんな中で、最もよく見かけるのが「Raid(雷達)」の虫除けスプレーだろう。Raidは米ジョンソン社との合併会社である上海莊臣有限公司が製造販売している殺虫剤ブランドで、ほかにも後ほど紹介するリキッド式電気蚊取り器や殺虫スプレー、ゴキブリ駆除剤などを製造している。ジョンソン社は、日本でもオレンジ色のスプレー缶が目印の

虫除けスプレー「スキングuard」や「カビキラー」、「スクラビングバブル」などを製造販売しているメーカーだ。Raid の虫除けスプレーは、フローラルとアロエの2種類の香りがあり、1本100ml入りで25元ほど、3本セットで40元前後する。含まれるディートの濃度は7%で、効果は約4時間となっている。天猫(Tmall)では2本あるいは3本セットが月間7,000件も売られている。



中国ローカルの家電・殺虫剤メーカー、成都彩虹電器の虫除けスプレーは、ディートの濃度10%で効果は8時間続く。100mlで1本15元ほどと手ごろだ。ディートの代わりに植物精油を使った姉妹品もあるが、こちらは75mlで約30元となっている。

国産ベビー用品ブランドの潤本からは、ディートを使っておらず、効果が6時間続く製品がでていいる。虫除けにも虫刺されの痒み止めにも使えて、1本は5~6元ほどだ。天猫超市では2本セット(16.8元)の月間販売数が3,300件以上、公式旗艦店では6本セットの販売数が5,000件を越える。購入者のコメントを見る限りでは、ディート不使用で値段が安い人気ようだ。



越境ECで手に入る海外製品としては、オーストラリアのAerogardが人気だ。日本でも認可されたばかりのイカリジン(Picaridin)を主成分とした虫除けスプレーで、効果は4時間ほど続く。1本135mlで、価格は60~100元ほどと国産品の数倍も高価だ。しかし越境ECサイトの天猫国際にある公式旗艦店では、1本65元で月間販売数は約1,500件、オーストラリアのドラッグストア「Chemist Warehouse」では1本79元で、月間販売数は8,000件を越える。

他にもシリコンなどに虫除け成分を練り込んだ腕輪状の虫除けリングや、薬剤を交換できる腕時計型虫除け、衣服に貼る虫除けシールなども国内メーカーから出ている。これらのタイプの多くは植物精油などを使ったもので、安全性とファッショナブルなことをアピールしており、天猫での月間販売数が数万件を越えるものも少なくない。“手軽であること”は中国で売れる条件の一つだが、腕につけるだけ、ベルトやバッグにぶら下げるだけという手軽さが虫除けスプレーより好まれるのだろう。



使い捨て虫除けリングは1つ10元ほど)。詰め替えタイプは30元前後だが薬剤を拡散するファンはついていない

一方、家庭用の虫除け製品としては、昔からある蚊取り線香はもちろん、マットタイプやリキッドタイプの加熱式電気蚊取り器が普及している。本体と数カ月分の薬剤のセットで、いずれも20元ほどから手に入る。日本と同様にリキッドタイプの方が主流になっており、特に直接コンセントに差し込むタイプの製品の選択肢は多い。



中国の家庭のコンセントはゆるいことが多く、本体を直接差し込むリキッドタイプは重さで落ちたり、斜めになったり。

このほか日本では家庭用として一般的でない、誘虫 LED ランプで蚊を集めて吸い込み退治する蚊取り家電も登場しており、80元程度から数百元以上するものまで様々だ。USB の蚊取り器は蚊取りマットを入れて使う物で、USB で充電してそのまま屋外に持ち出せるタイプもある。逆に日本でよく使われているワンプッシュ式蚊取りスプレーは日本のアース(安速)が販売しているが、まだ日本ほど一般的ではないようだ。



誘虫 LED 家電は下のカゴに虫が溜まる。高さは30センチほど。USB タイプはマットが主流で本体は30元程度。

3. 害虫用殺虫剤

殺虫剤メーカーは全国に約 200 社あり、大手とされるのが「Raid(雷達)」の荘臣、超威(SUPERB)、榄菊の 3 社だ。エアゾールタイプの殺虫剤でもっともよく見かけるのもこの 3 社の製品だろう。ハエ、蚊、ゴキブリ、アリ、ノミ、ダニ、カメムシ、クモなどに効くものが多く、1 本 15~30 元くらいで手に入る。日本の「アースジェット」のような引き金式トリガーノズルの商品はなく、ヘアスプレーのような普通のスプレー缶



ばかりだ。日本ではあまり見かけないミストタイプのスプレー式殺虫剤も多い。風呂用洗剤をシュッと吹きかけるあの感じならば、簡単に虫に逃げられそうなものだが、アリやダンゴムシのような飛ばない虫を駆除したり、あるいは寝る前や外出前に排水口にス



プレーするために使う。都市部の住宅はほとんどがマンションだが、排水トラップや S 字トラップを設けずに排水管をつないでいることが多いため、排水口から虫が上がってくることは珍しくないからだ。また害虫を冷気で凍らせて駆除するタイプの殺虫剤も見かけない。

日本ではおなじみのくん煙タイプの殺虫剤は、日本のアースが「アースレッド(紅阿斯)」を販売しているほか、中国メーカーも数社が製造している。中国の住宅はたいていフローリングやタイル張りである上、化学物質の毒性を過度に気にする風潮もあってか、日本ほど利用されていない様子だ。アースの製品は 1 個 40~



60 元するが、中国メーカーの製品は火を使うもので 1 個 5 元ほどだ。煙が出ないエアゾールタイプのくん蒸殺虫剤は出回っていないが、日本には無いゴキブリ駆除用線香がある。一見、蚊取り線香のようなのだが、くん煙殺虫剤と同様に、火をつけた後は数時間部屋を閉め切っておく。



ゴキブリ駆除では、粘着シートを使ったゴキブリ捕獲器もあるが、中国メーカーの製品は餌が別売りのものや、中の粘着シートだけを取り換えて繰り返し使うものもある。餌も粉状、顆粒状、大きなラムネのような粒、ジェル状と様々で、殺虫成分の入っているものと入っていないものが売られている。特に注射器状の容器に入っている薬剤は、粘着シート捕獲器の餌として使うこともできるが、そのまま直接ゴキブリの出る場所に米粒大にちょんちょんと置いて使う方法が一般的だ。薬剤に触れる心配のない据え置き型の誘引殺虫剤も複数のメーカーが販売しており、欧米から輸入した薬剤をアピールするものも多い。日本のアースも「ごきぶりホイホイ」やホウ酸を使った誘引殺虫剤を販売している。EC サイトでは購入者が駆除効果を写真付きでコメントしているケースが大半で、価格が高くても評価が良い商品が売れ筋となっている。



売れ筋の注射器タイプの薬剤は1本10元ほど、粘着シート捕獲器は10個セットで20元前後が多い。

- 本レポートに含まれる情報は一般的なご案内であり、包括的な内容であることを目的としておりません。また法律・条令の適用と影響は、具体的な状況によって大きく変化いたします。具体的な事業展開にあたってはクララオンライン コンサルティングサービスチームより御社の状況に特化したアドバイスをお求めになることをおすすめいたします。また本書の内容は2017年5月30日時点で編集されたものであり、その時点の法律及び情報、為替レートに基づいています。

本書はクララオンライン コンサルティングサービスチームにより作成されたものです。クララオンラインの中国、台湾、韓国、シンガポールなどアジア各国のインターネットコンサルティングサービスに関するお問い合わせは以下の連絡先までお気軽にご連絡ください。

asia@clara.ad.jp または +81(3)6704-0776